

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	HIYOKO MUSIC増田教室		
○保護者評価実施期間	2026年 4月 6日		～ 2026年 4月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2026年 4月 6日		～ 2026年 4月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自己肯定感を育む支援を展開している。	子ども達の「やりたい」「やってみたい」などの気持ちを尊重し、子ども達が主体的に決められるような支援を行っています。 また、日々の小さな変化や成長を見逃さないよう、丁寧な関わりを行っています。	より支援の質を向上させられるような仕組み作りと職員のスキル向上等を図っていきます。 また、より多様な活動プログラムを取り入れることで、主体性や社会性の育成にいつそう努めていきます。
2	子どもの特性や年齢に合わせてプログラム内容を変え、挑戦する機会を設けている。	個々の発達段階に合わせた関わりを行うことを意識しています。同じプログラム内容でも子どもたちが達成感を感じながら活動に参加できるように、個々に合わせた提案を行っています。	支援の引き出しを増やし、お子様一人ひとりの特性に応じた柔軟な対応力を高めてまいります。
3	広々とした療育スペースを確保している。	支援室には余計な掲示物等を張らず必要最低限の物だけにし、視覚的にもプログラムに集中できるような環境作りを心がけています。	整理整頓を常に心がけ、のびのびと体を動かせるスペースの確保を行っています。子どもたちにとって使いやすい動線も意識しながら支援できるよう進めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育所や幼稚園との交流など、地域の同年代と活動する機会を作ることができていない。	地域の保育所・幼稚園との接点を創出する動きができていなかった。	地域のイベントなどがある際は活動の一貫として参加できるように地域の情報を収集する。 近隣の幼稚園、保育園への挨拶回りをおこない連携を強化する。
2	保護者同士が交流できるイベントやきょうだい児を含めた交流会の機会を設けることができていない。	交流の機会を設定するにあたり、事業としてのルールや規則を設定していなかった。	保護者やきょうだい児も参加できるイベントを開催し、支援の充実を図っていく。 また、スケジュール調整が難しいご家庭でも参加できるように時間帯の調整やテーマを絞ってオンラインでの参加も検討していく。
3	活動のバリエーションで子どもの興味関心に合わせた新しい取り組みが少ない。	利用児・保護者のニーズを取得する取り組みが少なく、既存のプログラムを行うことが多かった。	利用児・保護者から意見を集約し、既存のプログラムに捕らわれない活動を提供する。 系列の他事業所とも協議しながら、プログラムに柔軟性をもたせられるよう検討していく。